

小学生の部

「交通安全ファミリー作文コンクール」は本年度(令和二年度)で第四十二回目を迎えた。

本年度の本審査会(審査の過程【参照】)は従来の審査会と比較すると二つの点で相違があった。

その第一点は審査対象校がこれまで「小・中学生の部」であったものが本年度は「小学生の部」のみとなった点である。

第二点は小学生の応募者数(応募者数【参照】)に大きな減少がみられたことである。これには世界的に猛威を振るう「新型コロナウイルス感染症」対策として教育現場において臨時休校対応がみられたことである。この対応は応募数の減少にも影響を及ぼしたといえるかもしれない。

【応募者数】

本年度の「小学生の部」の作文応募者数は、六百二十六人と昨年度の二千二百九十七人と比較し大きく減少した。

【審査の過程】

審査は予備審査と本審査の二部から構成され、予備審査においては教職経験者三名で構成される審査会にて応募作品

すべてが審査され、最終的に学年ごとに上位十作品(合計六十作品)が選定され、本審査に送られた。

八名で構成される本審査会においては、予備審査を通過した六十作品を各審査員が事前に評価し、その結果を事務局でまとめた「審査評価集計表」に基づき開催当日(十一月十九日)に表彰作品選定のための討議と審査がなされた。

【表彰作品の選定】

表彰作品の選定数は以下のとおりである。

○最優秀作(内閣総理大臣賞) 小学生全体で一作品。

○優秀作(国務大臣・国家公安委員会委員長賞) 小学生各学年で一作品以内。

○優秀作(文部科学大臣賞) 小学生全体で一作品以内。

なお、内閣総理大臣賞および文部科学大臣賞については当該学年のみ佳作作品から優秀作(国務大臣・国家公安委員会委員長賞)として一作品を繰り上げる。(ただし落選作品からの繰り上げはなしとする)

○佳作(警察庁交通局長賞) 小学生各学年で三点以内(計十八作品以内)

【表彰作品の選定結果】

ここでは内閣総理大臣賞と文部科学大臣賞のみの選定結果を示す。

(1) 最優秀作(内閣総理大臣賞)

内閣総理大臣賞には、群馬県小学四年生、小林朋生君の「ぼくはおじいさんの先生になる」が選ばれた。

本作品は、高齢運転者による事故の増大に伴い「運転免許の返納」が注目される昨今、返納後散歩や用事のために歩く機会が多くなった隣のおじいさんに自分が先生役となって安全な歩行について教えるなど、やさしさと思いやりのある作品である。本作品については審査員全員が高い評価を下した作品であったことを追記する。

小学生が高齢者にかかわることが今後予測されるという点や世代間を通じた交通安全の確立の上からも内閣総理大臣賞にふさわしい作品といえる。

(2) 優秀作(文部科学大臣賞)

文部科学大臣賞には、東京都小学二年生、榎山香都さんの「まもろうよひょうしきと交通安全」が選定された。

本作品は、読み手への問いかけなど作文としての要素が十分発揮されている点、また内容的には「標識調査」という作者の積極性を背景に榎山さんの安全意識の変容過程が良く表されている点が高く評価された。

なお、優秀作(国務大臣・国家公安委員会委員長賞)に選定された「おうだん歩どうってすこいな」の小学二年生、本田柴乃さんは、昨年度は文部科学大臣賞を受賞し本年度も引き続きの受賞となった。

【審査員からの声】

本年度の審査で、各審査員からの本年度の応募作品についての印象などについて以下、その意見や指摘内容をいくつか紹介して「審査を終えて」の最後とする。

○社会の動きに敏感となっていている作品が印象的である。昨年度は高齢者の「運転免許返納」や「あおり運転」などを題材にした応募作品が目立ったが、今年度は「ソーシャル・ディスタンス」など世相をふまえた題材が見受けられた。

○「見守り」など社会全体に目が向いている。

○「調査」など気づきの力が養われている。

○家族のかかわりの中で「気づき―地域の高齢者の存在」に関心が高まっている。

○将来の社会をつくる姿が芽生えている印象を持った。

最後に積極的かつ真剣な審議をいただいた審査員はじめ事務局の方々の努力とご協力に深く感謝申し上げます。

以上

令和2年度交通安全ファミリー作文コンクール審査員

—小学生の部—

(敬称略、順不同)

.....

	安全教育研究所所長
宇田川 光雄	目白大学非常勤講師
平林 久美子	全国公立小・中学校女性校長会会長
入 谷 誠	一般財団法人全日本交通安全協会専務理事
幸田 徳之	一般財団法人日本交通安全教育普及協会専務理事
寺本 耕一	内閣府政策統括官(政策調整担当)付参事官(交通安全対策担当)
石塚 哲朗	文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課長
佐野 裕子	警察庁交通局交通企画課長